



グランドより旧事務室、図書館を望む

学園の昨今と 学生募集の協力依頼

教務部長 西村 典夫

日頃すっかりご無沙汰しておりますが、いかがお過ごしでしょうか。早いもので、この三月に第四十三期生を送り、四月には新入生を迎えて、もう四〜五カ月、昨今の情報としてお伝えするのにはいささか気が引けますが……

一、卒業式
今年三月五日が日曜日でしたから、二日繰り上げて三月三日(金)に卒業式を挙行しました。本科は、昭和六一年四月に入学した一六名・六十二年四月に三年編入一名・復学四名の合計一二一名中九四名が卒業いたしました。その内訳は、園芸コース六七名・畜産コース一六名・生活栄養科一名です。卒業に至らなかった二七名の多くは退学者で、その中には学業成績不良者も

同窓会会報

第43号

平成1年9月30日
発行所
茨城県東茨城郡
内原町鯉淵5965
鯉淵学園同窓会
TEL 0292-59-2811
振替口座 字都宮3-1632番
印刷所
佐藤印刷株式会社

第十九回同窓会大会開催について

左記により第十九回同窓会大会を開催いたしますので、会員各位の御参加をお待ちいたします。

平成元年九月三十日

鯉淵学園同窓会会長 和田 文雄

会員各位

記

- 一、期日 平成元年十一月十八日(土)
- 二、場所 鯉淵学園五番教室
- 三、日程 会場集合受付午後一時〜一時三十分
大会一時三十分〜四時
常任委員会四時〜四時三十分
懇親会四時三十分〜六時三十分
- 四、参加申込み 十一月五日までに、はがき、又は電話にて宿泊の有無も加え、事務局(〇二九二一五九一八二一広瀬)に申し込んで下さい。
- 五、参加費 三千元(懇親会費を含む・宿泊は二千元加算)
- 六、その他

ありますが、方向転換の諸君も少なからず、まことに頭の痛い現象です。普及専攻科は、昭和六十三年四月、一六名入学しましたが、一名休学(カナダに研修留学)、一名退学(就職)で、一四名が卒業しました。内訳は、園芸専攻一名・畜産専攻二名・食物専攻一名であります。選科は、園芸コース一名・生活栄養

科一名の計二名が修了致しました。以上のように、昭和六十三年度の卒業総数は一一〇名であります。これを因みに、卒業証書番号で見ますと、本科の最終は四、〇六八号・普及専攻科の最終は五六号・選科の最終番号は一二一号で、これに研修生・実科生・通信教育修了生を加えますと、昭和二十一年以来鯉淵を巣立った総数は、五千数百

に相なります。

二、入学式

例年の入学式四月十五日は生憎土曜日で、今年は一昨日繰り上げて十四日(金)に挙行しました。

本科生は、志願者数一〇五名の中から書類選考で八六名を迎え入れました。内訳は、農業科七四名・生活栄養科一名・専攻科二名・普通科三名・農学専攻科二名・畜産専攻科一名・食物専攻科一名・商業専攻科一名・普通科三名で、大検合格者も含まれております。例年のように、その分布は北海道から沖縄に至る三三都道府県に及んでおりますが、茨城一〇・千葉九・新潟六・福島・神奈川・沖縄など各五名。

山形・愛知・石川・奈良・鳥取島根・山口・香川・徳島・佐賀長崎・大分などからの入学者はありませんでした。

本科三年編入

平成元年6月末現在の学生数は次の通りです。

	1年			2年			3年			合計	専攻科	普通科	選科	総計	
	農	生	計	園	畜	生	計	園	畜						生
現在数	72	12	84	76	12	17	105	61	18	14	93	282	33	0	315
	(8)		(20)	(8)	(1)		(26)	(3)	(3)		(20)	66	(8)		74

()内は女子

は今年で三年目になります。今年も鹿兒島県立農業大学から二名、兵庫県立農業大学から二名、計四名の編入者がありました。

普及専攻科は、志願者四名の中から一般教養・専門学科・論文の筆記試験、それに面接試験を実施して二名を入学させました。全員この三月に本科を卒業した諸君ですが、内訳は園芸専攻二名・畜産専攻一名・食物専攻一名であります。実は、今年の専攻科生は学園が普及専攻科を設置しての本科入学者で、はじめから専攻科を意図していた諸君で、それだけに期待をかけております。

三、教科課程の一部変更

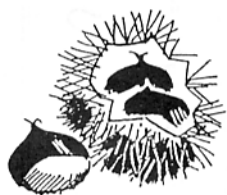
これまでの環境整備(美化作業)を実習教科として年間四五時間(一単位相当)、三者会・学内懇談会・自治会総会その他を含めて、新しく自治協同を演習科目として年間三十時間(一単位相当)を加えた外、松本学園長の特別講義を一年生三十時間(二単位相当)、三年生三十時間(二単位相当)、また本科三年に文学・生物学(バイオテクノロジー)・地学の講義をそれぞれ三十時間(二単位相当)に加え、一方、植物病理学三十時間(三年園芸コース、被服構成学実習四五時間(二年生活栄養科を削除しましたが、全体としてはそう大きな変更はありません。

四、教職員の移動

前述のように今年には普及専攻科生が多く、復学者を加えて三三名になりましたので、教授として、渡辺正信先生(本学園第七回生・茨城県岩井地区農業改良普及所長をこの三月末定年退職)を迎えました。農業普及のベテランであることは勿論、クリスチャンで仁徳すぐれたまことに得難い人をお願いすることができました。また、非常勤講師として運動生理学(新規)の尾形敬史先生(茨城大学)、地学(新規)の高瀬一男先生(茨城大学)、外国語(交替)は岡田慶子先生から黒沢妙子先生に。同じくブライアン先生からナンシー先生に、家政学原論(交替)は松岡明子先生(共立女子大学)から川上雅子先生(お茶の水女子大学)に。被服学関係全般(交替)は荒井ちつ・君山いと両先生から半田浩子先生に。作物学(交替)は有賀武典先生から小野敏忠教授に。有賀・松岡・荒井・君山・岡田の諸先生は、十年余りにわたってご来講下さり、本当に有り難うございました。また、生物学は鈴木喬先生(土浦短期大学)から石間祥生先生(茨城県立中央病院)に。鈴木先生には、小山隆先生の臨床栄養学をお願いしました。この外にも、科目の担当変更など若干ございますが、お蔭様で平成元年度は大過なく進んでいたしております。

五、平成二年度学生募集協力依頼について

昭和六十一年から六十三年と、少しずつ出願者も増える傾向にありましたから、今年(平成元年度)も本科出願一五〇(六〇名との胸算用でした。しかし最初から振るわず、結局前述のように一〇〇名を僅かに越すに止まりました。その理由の検討・分析も試みましたが、容易に克服できない要因も存在しており、可能な限り全学総力を挙げて、平成二年度の学生募集に取り組むべく、諸準備を進めて参りました。印刷物も、従来のものを専門家に依頼して抜本的に作り直しました。これらの資料は、全国の高等学校・農協・普及所・卒業生・在学生・ご父兄の皆様にお配りして協力依頼を申し上げますとともに、各種の新聞・雑誌等に広告を掲載、更に職員が手分けして所要所に出向いて、学園の普及広報に微力を尽くしたいとの計画を進めております。何卒、倍旧のご支援・ご協力をたまりませんよう、重ねてお願い申し上げます。末筆ながら、皆様のご多幸をお祈り致します。



友部・岩間街道沿い諸施設の 移転整備等について

(総務部)

友部街道が六三・平成元年度にかけて
改修されます。それに伴ない、学園の
土地四〇アール程が買取され、友部・
岩間両街道沿いの生垣と若干の樹木の
伐採、諸施設の移転整備が行なわれ
ることになりました。

正門は、九期生が卒業記念として寄
贈(門柱)したものを、五八年一月に
二四、二五、二九、三三、三五、三六
期生の卒業記念品代と中央競馬社会福
祉財団の助成金で両袖をつけ、前後を
舗装するなど改装整備してあります。

男子寮門は、四三年度後期役員によ
って寄贈されたものです。
生垣はヒバの生垣約四百米、樹木は
二期の大山氏の寄贈になるアメリカ楓
二本、桜の木四本、雑木若干などです。
諸施設の移転整備等は、学内整備委
員会で検討することになりますが、御
意見などありましたらお寄せ下さい。
原案では、門はそれぞれ数米後退させ
復元し、生垣は改修道路に沿ってネズ
ミモチで造成したいとなっております

が、正門を岩間寄りに移したらどうか
という意見もでております。工事は男子
寮門は平成元年三月、正門は平成二年三
月、生垣は同四月を予定しております。
誌面をおかりし、卒業生特に門や記
念樹を寄贈したり生垣や樹木を植え管
理下さった皆様は、以上のことを報告
すると共に、御
了承下さるよう
お願い申し上げ
ます。

会費の納入方法について

(その2)

前号の会報で、会費の納入方法について、預金口座よりの振替方法
についての概略について述べたので、今回は具体的な数字を出し
てみますので、よろしくお願いたします。

準備費として (同窓会々員数)
預金口座振替依頼書 1部20円×5000名 = 100,000円
封筒、切手、発送費など 80円×5000名 = 400,000円
合計 500,000円

次に、300件の預金口座振替利用者があった場合を想定して
1年目の収入は、300件×1500円(年会費) = 450,000円
支出は、預金口座振替依頼書代 = 100,000円
封筒、切手、発送費など = 400,000円
口座引落し手数料1回 200円×300件=60,000円
差引きますと、110,000円の赤字となります。
2年目の収入は、300件×1500円(年会費) = 450,000円
支出は、口座引落し手数料1回 200円×300件=60,000円
差引きますと、390,000円の黒字となります。
1、2年の差引合計は、280,000円の黒字となります。

次に、600件の預金口座振替利用者があった場合を想定して(昭和
63、平成元年度の会費納入者とはほぼ同数です)

1年目の収入は、600件×1500円(年会費) = 900,000円
支出は、預金口座振替依頼書代 = 100,000円
封筒、切手、発送費など = 400,000円
口座引落し手数料1回200円×600件 120,000円
差引きますと、280,000円の黒字となります。
2年目の収入は、600件×1500円(年会費) = 900,000円
支出は、口座引落し手数料1回200円×600件=120,000円
差引きますと780,000円の黒字となります。
1、2年の差引合計は、900,000円の黒字となります。

以上が概算した数字です。利用件数が多くなる程に、同窓会の財成
にゆとりがでてくることになります。上記の預金口座振替方法が実現
されるまでには事務局、会員双方に困難が想定されますが、御理解御
協力をお願いいたします。(事務局)

同窓会の財政は窮迫しています。
63.平成元年度会費3,000円未納の方は納入し
て下さい。

——同封の振替用紙にてお願いします——

今回は秋田県大潟村の八期
藤井さんよりの便りを紹介いたします

大潟村の入植概要

年改まり平成元年を迎え心改まりました。ここに八郎潟湖を下陸されて以来早や二二年の才月が流れました。初

をめぐって国と入植者との間に見解の相違が出て後々に問題が起るのである。

回昭和四三年五七名をかわりに入植営農を開始し一次入植者は先駆的役割を果し「営農の形態は機械化一貫体形を基本に水田単作を主体に灌水直播又は乾田直播を奨励され鋭意専心努力された。その後二次、三次、四次と年を追うごとに入植者を募集し昭和四五年米余り現象が現出し四次入植者を募集した段階で一時入植募集を取り止め因は米の需給調整を見て暫らくその様子を見て、その後昭和四九年第五次の募集をしめきましたので。入植戸数は五八九戸で平均一戸当りの配分面積は、「昭和四三年第一次から第四次迄」配分され九haから十一haで少ないものから多いものでは二haの格差が出ました。第五次入植者を契期に各農家への耕地面積を平均化する為に二haの格差是正をする事で一戸当り第一次から第四次入植者迄は四haから六haの増反配分がなされ第五次入植者と吾々も同様十五ha配分された。この配分時の契約問題

国は新農村建設設立する当初の基本方針は日本国内の飢餓状況を緩和する事と同時に日本農業のモデルになる大規模な農業で豊かな文化的生活水準の高い農村を作るの目的として作られたが昭和四五年より米過剰による減反政策がとられる様になるや一転我々入植者にも大きな影響がでてくるのである。勿論昭和四五年を最後に暫次一時入植募集を中断しその後の再開をされた第五次入植者との機を同じくして吾々にも増反配分され格差是正により一次入植者から四次入植に四haから六ha配分され一戸当り平均一五haとなるのであるがその時点で再度契約にサインその契約書の内容は次の四点に要約出来る。

1. 契約書は正しくないこと。
2. 契約に基づく事業用法二十条一項は亡くなっていること。
3. 15haは田であること。
4. 減反に協力しているけれど減反奨励

鯉淵学園卒の入植者

卒年	氏名	旧姓	住所	入植年	出生県
8期	松木 茂		大潟村西三ノ二	第一次	高知
8期	藤井 正雄		大潟村東三ノ二	第三次	茨城
13期	高橋 忠生		大潟村西三ノ一	第五次	秋田
16期	佐々木 諭		大潟村西二ノ二	第一次	岩手
16期	佐々木 淑子	飯田	大潟村西二ノ二	第一次	茨城
20期	黒瀬 喜多	飯田	大潟村西一ノ四	第五次	滋賀
24期	山本 平男		大潟村西一ノ四	第五次	茨城
28期	山本 嘉子	今田	大潟村西一ノ四	第五次	山形
25期	八柳 ふみ子	齊藤	大潟村西一ノ一	第四次	秋田
35期	西尾 繁史	中	大潟村東三ノ一	第三次	高知

余はもらっていないこと。
これを契機に農家の主張する正当性が公の場で明瞭化されて来つつ農家側に感じられ始漸次水稻栽培が主体になって来た。農家の勢いが増加傾向になりつつあるのを感じて行政側が危機感を感じ種々の防衛工作に転じた。

8.6ha以上の作付農家を過剰作付と称して政府米買上の限度数値を削除したり売り先のない米の販売防止の為七ヶ所の検問所を設けそのヤミ防止の徹底を強化したりして極力過剰作付を少くしようとして行政は努力した。行政側の過剰防衛に対し農家側は検問所設置を解除すべく東京の有力な弁護士の応援を得てその打撃策に当った。検問所設置の県予算計上の一過問位経過したのでを見計って吾々の弁護士は一般公開質問状を提出した。その要旨は、

1. 大潟村の検問は法の下に平等でない。
2. 減反の強制は衆参両院の附帯決議に違反する。
3. 加工原材料価格五千八百円とされる根拠は、
4. 過剰米について大潟村だけ特別取り扱いをする法的根拠等々……外二点の六項目を出したのである。この質問要旨を見て県は検問所の設置を直に解除し効果を充分感じられた」とのこと。で解散しヤミ米防止運動の一環政策は終わった。アツクはない幕切であった。その後行政は過剰の作付派の子弟に対し

男子寮が新設

学生寮(男子寮)に新設ができましたのでお知らせいたします。

昭和六十三年年度国庫助成施設整備事業で、男子寮が新築されました。面積六六三・三平方メートル(鉄筋コンクリート二階建)のモダンな寮です。旧食堂、学生ホールのあった建物を取りこわし、旧東寮との中間位置に建てられ、新寮の名称を教職員、自治会員に公募し、「若草寮」と決定され、自治会年度の昭和六十三年度後期より寮生が入り使用しています。



平成2年度学生募集

財団法人 鯉測学園
農民教育協会
会長 堀内 巳次
学園長 松本 正雄

- 募集人員(本科3カ年)
農業科……………80名
(2学年から園芸と畜産のコースに分れる)
生活栄養科……………40名

- 応募資格 高等学校卒業者
- 受付期間 平成元年11月21日(火)より
平成2年2月20日(火)まで

●選考 書類選考

○普及専攻科(1カ年)
本科卒業者が入学でき、これを卒業(見込)すると改良普及員資格試験の受験資格が得られる。

●生活栄養科卒業で栄養士資格が与えられる。

奨学金制度あり・自治的全寮制

詳細は500円(切手可)を封入のうえ下記へ
〒319-03 茨城県東茨城郡内原町
鯉測学園教務部(0292-59-2811)

- | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--|---|---|--|---|--|--------------------------------|---|-----------------------|--|----------------------|---------------------------|
| 中島友市
宮下高雄
岩崎一豪
中原忠久
井川幸雄
報部政明
岡田正規 | 小林(神倉)雅彦
別所富美夫
大津(武笠)桂子
安藤訓雄
及川拓男 | (十三期生)
小野三郎
園田正平
甲斐敬三
杉下(有本)良一 | (十四期生)
中村幸雄
田中茂
朽木直文
岡本孝夫
河村研二
白石寛治 | (十五期生)
森友重勝
山下直
山田正弘
山下益弘
大和潤介
本多忠行 | 柳沢祐夫
石橋精也
高橋勢一
斎藤信之
安藤雅之
佐藤信夫 | 志水タビト
神藤風
伊藤山嵐
東山風
三浦巖
益子英
杉原英明
折戸善信
惣子利善
渡辺安子
元水眞澄
西沢弘毅 | (十六期生)
定立紀夫
小西英彦
真志喜幸雄
三浦秀人
金子貞三
青木久良子
佐々木寛 | 石川義雄
柳田靖行
砂川寛富
(十七期生) | 岡田新
渡辺日出男
村上貞雄
渡沢(熊谷)光晴
小牧正和
本山邦広
竹内邦夫
山根邦夫
三浦邦夫
真志喜幸雄
松藤道生
(十八期生) | 井上栄一
安ヶ平利秋
成田正幸 | 丸田敏孝
林橋弘且
滝沢健夫
佐山武雄
西岡幸雄
中岡真雄
松藤道生
(十九期生) | 大川正一
菅原洋子
茂木洋子 | 遠藤忠
須藤良
小島新
南雲平哉 |
|--|---|--|---|---|--|---|--|--------------------------------|---|-----------------------|--|----------------------|---------------------------|

